

入選 北海道 矢野川 弘貴 様 (高校生 男性)

私は「年金」という言葉をよく耳にします。学校の社会科の授業で先生に教えてもらったり、テレビのニュースやワイドショーでアナウンサーや芸能人が話しているのを聞くことがあります。そうして、小学生の頃から認識はしていた「年金」という言葉ですが正直、詳しい内容や意味に関してはよくわかりません。65歳になればもらえるというような認識だったので今の自分には関係ないと自ら調べることもしませんでした。しかし、今の自分の生活に年金が関わっていることを私は知りました。

私の父は自衛隊に勤務していて私が小学4年生の頃、単身赴任で家を離れました。それから4年後、父が家に帰って来ることになりました。私は素直に嬉しかったのですが一つ気がかりなことがありました。それは帰ってくる理由が病気によるものだったからです。その病気は体が徐々に麻痺し動かしづらくなるというものでした。私は、適切な治療を行えば治るものだと思っていました。しかし、それは、国が指定する難病の一つでした。十万人に一人から二人が発病するという稀な病気で、特効薬はありませんでした。私が高校一年生の五月、父の容態が悪化し病院に入院しました。父は寝たきりとなり闘病の末、五ヶ月後息を引き取りました。

精神的な傷が大きい中、一家の大黒柱として家計を支えてくれていた父がいなくなってしまう経済的にも厳しい状況になることは高校生ながらに想像がつきました。そんな時、母が遺族年金のことを話してくれました。自分でも遺族年金について調べてみることにしました。遺族年金というのは、国民年金または厚生年金保険の被保険者、被保険者であった方が亡くなったときに、その方によって生計を維持されていた遺族が受け取ることができる年金と書いてありました。遺族年金には遺族基礎年金と遺族厚生年金があり、亡くなられた方の年金の納付状況などによっていずれか、または両方の年金が支給されます。そして私の家は父が厚生年金に加入していたので遺族厚生年金と受け取ることができました。

今、私が普通に学校生活を送り、三食しっかり食べて生活できているのは遺族年

金のおかげであり、年金をしっかり納めていた父のおかげです。

人にはいつ何が起こるかわかりません。突然、交通事故に遭うことも、治すことができない病気にかかることも少なからず誰にでも可能性はあるはずです。そんな知ることはできない、でも予測することはできる未来を考え、自分の家族のためや老後のために年金を納めることはとても大切なことだと実感しました。